

# 賀 謹

明けましておめでとうございます。

2008年を迎え、心より新年のご挨拶を申し上げます。今年こそは皆さまがたにとりましても、当院にとりましても、夢のある希望に満ちた年であって欲しいと願っております。

医療をめぐる環境はますます厳しさを増し、全国の自治体病院は最悪の状態に陥っております。しかし、どのような社会情勢になろうとも、中東遠地域の中核病院として、「愛365日」の精神を持って、この地域の皆様に満足と安心をもって受け入れられる、より質の高い医療を提供することに努めていきたいものと存じます。

## 昨年の業務を振り返って

一昨年の診療報酬改定では、薬価・本体あわせて3.16%の引き下げが行われ、病院経営を取り巻く医療環境はますます厳しくなっており、一昨年の経営状況報告では、3億1,752万円の純損失となつてしまいました。昨年も病院職員一同、収益の確保と経費の削減に努めましたが、今年度もより一層の経営努力が必要になると思われまます。

## 新病院へ向けた話し合いが始まる

当院がこの場所へ建てられてから、本年度23年が経つことになり、設備面での老朽化が目立って



# 質の高い医療の提供のために

院長 五島一征

参りました。さらに医療の高度化が進み、当院の医師不足も、全国の例にもれず深刻であります。国は医療費の抑制のためにベッド数の削減を政策としており、建て替えのためには、ベッド数の削減が必須となっております。また、建て替えを行うにしても、この地域の医療レベルの維持には、当院ひとつではたいへん難しい状況であります。

そのような中、昨年には「掛川市立総合病院のあり方に関する検討委員会」の提言が提出されました。その中で、同じく立て替えの時期にある隣の袋井市民病院との統合、周辺自治体病院との連携、統合、再編などによる新病院の建設が提言されました。

その提言や市議会での議論を踏まえ、昨年11月1日に「掛川市・袋井市新病院建設協議準備会事務局」が市役所に設置されました。12月21日には正式に協議会として発足し、第1回目の協議が12月26日に行われました。これから、両市で病院の建設を行うことになった場合、どのような病院がふさわしいのか、場所はどこがよいのか、いつ頃建てるのか、などの話し合いが進んでいくこととなります。

新しい病院は、現在、不足が著しい医師・看護師や当院で働くすべての職員にとつても、専門的な医療や勉強をする余裕があり、また何よりも働きがいを持って働くことができる病院にしていかなければなりません。そのためには、多くの皆様のご理解とご意見を伺っていくことが必要となります。昨年は、地区集會にも参加させていただき、当院の置かれた状況と今後のあり方についてご説明し、ご理解をいただけるようお願い致しました。今後も、当院の進べき

## ■お願いします

### 採用職員

- ◇非常勤看護師 (11/26付)  
栗原すみ代 人間ドック係
- ◇非常勤事務員 (12/1付)  
松本由美子 医事係

## ■ありがとうございました

### 退職職員

- ◇研修医 (11/30付)  
曾我真弓 医務局
- ◇非常勤准看護師 (11/30付)  
本田敦志 病棟4階西

方向性について、皆様のご意見とご協力をお願い申し上げます。

## 今年の病院

皆様から寄せられる当院への期待も、今後ますますに高まっていくものと思われまます。

当院は本年も、掛川市そして周辺市町の2次救急病院、そして急性期の医療機関として高度で安心できる医療を皆様に提供していくとともに、地域内の開業医院との連携を大切に皆様の信頼を深めていきたいと考えております。

多くの診療科で医師が不足し、皆様にはご迷惑をお掛けしております。医師確保には最大限の力を注ぎながら「愛365日」の心で、優れた医療を提供していきます。

本年もよろしくご指導のほどお願いいたします。